

ミハイル・グリンカ

歌劇《ルスランとリュドミラ》序曲

Mikhail Ivanovich Glinka : Ruslan and Lyudmila ~ Overture

フェリックス・メンデルスゾーン

劇付随音楽《夏の夜の夢》より「スケルツォ」

Felix Mendelssohn Bartholdy : Ein Sommernachtstraum ~ Scherzo

~~~ 打楽器アンサンブル ~~~

スティーブ・ライヒ

木片のための音楽

Steve Reich : Music for Pieces of Wood

ウィリアム・J・シンスタイン

ロック・トラップ (ボディパーカッション四重奏)

William J. Schinstine : Rock Trap

~~~~ ~~~~

外山雄三

管弦楽のためのラプソディ

Yuzo Toyama : Rhapsody for orchestra

ヨハン・シュトラウス1世

ラデツキー行進曲

Johann Strauss I. : Radetzky-Marsch

ルロイ・アンダーソン

フィドル・ファドル

Leroy Anderson : Fiddle-Fiddle

指揮：沼尻 竜典 管弦楽：近江シンフォニエッタ

演出：田尾下 哲 司会：朝岡 聡

令和3年6月3日（木）11時00分 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホール

子どもの音楽の世界をとらえ、創造する

砂場で、砂をすくい上げては指の間から地面にすべり落とす行為を無心に繰り返す幼児。その表情は真剣そのものです。指の間をすべり落ちる砂の感触、すべり落ちるときの微かな音、すべり落とした先に出現する砂の山の形が面白くて仕方がないでしょう。この未分化な感覚の中から、見えない音への好奇心、聴こえない音への想像力、聴こえる音からの創造力が育ち、子どもの音楽の世界は次第に広がっていきます。

「おとさぼ」は、子どもが音楽と出会い、音楽の世界を広げていく、まさにその時・その場を共有することのできる空間です。「おとさぼ」に参加するすべての子どもにとって、そして大人にとって、音楽との幸福な出会いの場であってほしい。表現する喜び、浸りきる幸福感を知ることのできる場であってほしい。その願いを込め、皆さまとともに、その時と場を創り上げていきたいと思えます。

グリムカ：歌劇《ルスランとリュドミラ》序曲

グリムカは青年時代にイタリア、晩年にドイツに留学して作曲理論を学んでおり、西欧の音楽をロシアに根ざした音楽と融合させた名曲を生み出しました。この序曲は彼の作品の中でも親しまれている作品のひとつです。物語は古代ロシアのキエフ公国時代、ルスランとキエフ大公の娘リュドミラとの結婚の祝宴の最中に、魔術師が花嫁をさらってしまいます。そこでキエフ大公は娘を助け出した者を新たに花婿として迎えることにしましたが、結局ルスランが苦心の末リュドミラを救出し、再び結ばれるというものです。軽快で華麗な旋律が特徴で、グリムカ自身も「全速力で疾走する」ように演奏することを要求しています。

メンデルスゾーン：劇付随音楽《夏の夜の夢》より「スケルツォ」

シェイクスピアの戯曲「夏の夜の夢」に感銘を受け、メンデルスゾーンはまず序曲を作曲し、そしてその17年後に劇付随音楽12曲を作曲しました。その最初の曲が森の中の妖精のささやきを思わせるような軽妙で楽しい「スケルツォ」です。

ライヒ：木片のための音楽

ライヒはミニマル・ミュージック（音の動きを最小限に抑え、パターン化された音型を反復させる音楽）を代表するアメリカの作曲家で、「木片のための音楽」は5人の奏者が音程の異なる5つの木片を使用し、一人の奏者が最後までメトロノームのように正確な拍を刻み続けます。それに合わせて各奏者が順番にリズムパターンを加えていくことにより音楽が成り立っていきます。

シンスタイン：ロック・トラップ

イーストマン音楽学校とペンシルベニア大学を卒業したウィリアム・J・シンスタインは、ペンシルベニア州ポッツタウンで27年間公立学校の教師でした。また、同地で音楽学校を所有していました。彼はパーカッションアーツソサエティで活躍し、多くの打楽器のための作品を出版しています。本日演奏される「ロック・トラップ」は、体だけを使った「ボディパーカッション」の定番曲として知られています。

外山雄三：管弦楽のためのラブソディ

「管弦楽のためのラブソディ」は、指揮・作曲家 外山雄三の代表作で、「あんたがたどこさ」「ソーラン節」「炭坑節」「串本節」「信濃追分」「八木節」という日本の歌で構成されています。打楽器は、西洋のものはもちろん、拍子木、キン、団扇（ウチワ）太鼓、締太鼓、チャンキも登場します。オーケストラが奏でる日本の雰囲気を楽しんでください。

J. シュトラウス1世：ラデツキー行進曲

彼の最高傑作といわれ、クラシック音楽全体でみても有数の人気曲です。ウィーンで開催されるニューイヤークンサートにおいて、アンコールの最後を飾る定番の行進曲で、聴衆が演奏に合わせて手拍子で応えることでも知られています。本日もどうぞ、曲に合わせて手拍子で音楽に参加してください。

アンダーソン：フィドル・ファドル

「そりすべり」「タイプライター」「トランペット吹きの休日」などで知られている、アメリカ軽音楽の巨匠ロイ・アンダーソンの作品です。全編にわたり曲芸的な弦楽器の見せ方が意識して作曲されており、演奏難易度も高い作品。当初弦楽合奏用が作られた後、管弦楽版も作られました。本日は管弦楽版で演奏します。